

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611510227	
法人名	医療法人十全会	
事業所名	グループホームはなみずき	
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字鶴畑42番地(088-672-1022)	
自己評価作成日	令和2年2月18日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和3年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がその人らしい生活ができるよう質の高い支援を目指し、四季の変化を感じて心身の活性化が図られる季節感あふれる行事、職員自らが演出するリハビリ・レクリエーション体操、敷地内の多目的ホールでの様々なエンターテイメント開催、お誕生会祝賀式典・余興、レクリエーションや美しい花や植物等の自然と触れ合える公園や地域資源である回転寿司店や喫茶店等の外食店へ外出できる機会、野菜・果物の収穫・調理・食事ができる機会を創出をすることを実践している。また利用者・家族の思いを実現可能とする信頼関係作り、利用者、家族、職員間、関係者等すべての方への真心を込めた挨拶、笑顔を心掛け、明るくて心やすらぐ雰囲気作り、チームワークの取れた職員連携と医療連携を徹底することで、安心、安全、安楽なケアを目指し、地域の中で信頼を持っていただける存在となることに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し離れた閑静な住宅街に位置している。周囲には、同一法人が運営する他サービス事業所や医療機関などがあり、季節ごとの行事や防災訓練等の機会に、連携して取り組んでいる。医療面でも、緊急時や夜間など、24時間対応可能な体制を整備し、利用者や家族等の安心・安全につなげている。利用者一人ひとりの生きがいを大切に捉え、敷地内の畑で野菜を職員と一緒に育てたり、食事の配膳や片付けと一緒に取り組んだりして、個性や尊厳、権利を尊重しつつ、その人らしく暮らすことができるよう支援している。また、法人の規程等にそって、資格取得のための計画や体制を整備するなど、職員の意欲向上やサービスの質の向上に向けた福利厚生充実にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が話し合い、地域の中での「絆」「信頼」を構築することを明確に打ち出した理念を作成し、毎日の朝礼時に、出席職員全員で唱和することで、共有し、認識度を高めることで、実践の有効性を高めている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員で考えた、事業所独自の理念を掲げている。毎日、朝礼で唱和したり、事業所内に掲示したりして、職員間で共有化を図りつつ、日ごろの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、自治会に加入している。地域の祭りで子供会の神輿、大人神輿の訪問があり、利用者から参加した子供へのプレゼント、掛け声のし合い、様々な角度からの写真・動画撮影等で、交流を深める工夫をしている。地元中学生の職業体験学習の受け入れを積極的に行っている。	事業所は、地域の自治会に加入し、季節ごとの行事に参加・協力したり、近隣中学校の体験学習やボランティアの受入れたりして、地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、敷地内で散歩や菜園の手入れを行う際、地域住民と挨拶を交わすなどして、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護人材育成のための貢献として、介護実習性を積極的な受け入りや、地元中学生の職業体験学習で、介護現場を勉強していただき、将来に向けて、認知症高齢者への介護・支援の方法や重要性を育んでいただく機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、ご利用者、町役場職員、民生委員など、地域住民、関係者に参加いただき、行事報告、創意工夫の業務の取り組み、安全対策や感染症予防対策等の報告・協議し、内容は、全職員に伝達し、業務のレベルアップに生かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行にともない、書面による会議を実施している。会議には、利用者や家族、町の担当者、民生委員などの出席を得て、相互に意見交換を行っている。管理者は、さらに多方面からの出席を得たいと考えている。	今後は、近隣の関係機関などに声をかけ、多方面からの出席を得ることで、会議の内容がさらに充実したものとなることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定申請や入退所連絡票提出の機会、運営推進会議、板野町地域包括支援センター運営推進会議や板野町敬老会への出席等で、ケアサービスへの取り組みや情報交換、相談等で、協力関係の構築に努めている。	管理者は、月2回、町の担当窓口を訪問し、事業所の活動や利用状況等を伝えている。困難事例が発生した際にも相談し、助言等を受けている。また、管理者は、年1回、地域包括支援センター運営推進会議の委員として出席するなど、相互の協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、防犯目的の夜間帯の施錠以外は施錠していない。身体拘束の具体的な行為について、勉強会・適正化委員会等を通して検討し、職員に周知徹底している。職員が玄関の出入りの声かけ合いを活発に行い、玄関付近の利用者・職員等、人の出入りが、よく観察された状態の維持、さりげない寄り添い・見守りによる安全配慮に取り組んでいる。	事業所では、年1回、身体拘束に関する研修会を開催し、拘束の内容や弊害について、職員間での周知・徹底を図っている。3か月に1回、身体拘束委員会を開催し、マニュアルの整備も行うなど、利用者の人権を尊重し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、ミーティング等で虐待項目に該当する知識・情報や、新聞・TVなどのメディアが伝える最新の動向などを検討し理解を深め、資料掲示・回覧等で、虐待予防・防止に取り組む意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、勉強会やミーティング等で、知識の習得ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際には、契約書の内容を懇切丁寧に説明しつつ、利用者やご家族のご要望、疑問をお受けするとともに、生活歴・家族の関わり等、幅広い話し合いの場とし、家族力を把握し、入所後の生活のQOLの向上に生かせる場とすることに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の近況報告や電話連絡等、コミュニケーションを密に行うことで、意見、要望等を言いやすい信頼関係構築に努めた上、玄関ホールの見やすい所に当ホーム及び公的な苦情相談窓口の掲示と、ご意見箱を設置し、要望や苦情を伝えやすいように工夫している。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。感染症の流行下において、家族等から意見を得るために、毎月電話で連絡をしたり、ガラス越しでの面会を行ったりするなど工夫している。出された意見等は職員会議で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎日のミーティング、申し送りにおけるコミュニケーション、または小まめな声かけによる人間関係づくりで、意見を言いやすい環境、状態を作り、勤務変更の希望など、柔軟に反映させている。	管理者は、毎日の朝礼や職員会議、法人のミーティングなどの機会に、職員の意見や提案等を聞き取っている。日ごろの業務のなかでも、一人ひとりの提案等を傾聴し、働く意欲の向上や質の確保等につなげている。意見等をもとに、個々の力量を活かしつつ、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や勤務状況、実績を把握し、また資格取得のシステム構築（学校、研修会などの受講料の費用負担による支援）で、安心して知識獲得、スキルアップに集中できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、資格取得等のため、外部の学校等への受講支援、または学校と提携して、法人建物内で、初任者研修の講義等を受託し、管理者、法人職員自ら教鞭を取り、職員が手軽に通えて、学習しやすい環境を構築し、地域住民の受講も同時に受け入れ、参加者の多様性、地域貢献、学習の質を高められるように創意工夫している。また受講料の金銭支援で、安心して勉強に集中できる体制を構築している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他事業所の防災訓練に職員を参加させて共同で防災の知見のレベルアップに努めたり、上記資格取得等のための学校の当法人建物内開催において、他の事業所の職員も受講していただき、一緒に学べ、知識、スキルアップ、サービスの質の向上させる体制に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の大事にしてきた習慣、生活歴等を把握し、言葉にならない思いにも理解しようとする姿勢で、安心感を持てる信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の関係を把握し、家族力を見極め、家族の要望、困っている所、できる所、できない所に、きめ細やかに関われる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関わりの初めに、本人、家族に加えて、周辺の支援者(ケアマネ等)から、広く詳細に情報を取り、本当に必要としている支援を見極め、要点をついた説明・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員がひとつの家の中で共同生活しているような関わり・雰囲気のもと、特に談話室において、リビング・お茶の間として、テレビニュース、時代劇、相撲等の視聴、新聞、雑誌情報を、洗濯たたみ等の家事作業をしながら見たり、共通の話題としたり、家族のように過ごせる機能を創意工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族のコミュニケーションが意図的に効果的に行われるように、面会時など、行事等について、ビデオ、写真などを交えながら、普段の生活がよくわかるような工夫をしてコミュニケーションしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の馴染みの場所である社会資源(田園パーク等)への外出をしたり、友人、知人の面会などがあれば、現状の能力の説明と、効果的なコミュニケーションができるように職員が間に入って調整したり、ご家族に連絡したりして、交流が密に複合的に行われるように支援している。	事業所では、利用者がこれまで大切にしてきた人や地域との関係性の把握に努めている。把握した情報をもとに、家族等の協力を得つつ、趣味活動や外出の支援を行っている。感染症の流行下においては、携帯電話や手紙のやり取りを支援するなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は、認知症の程度、性格、生活習慣、年齢・世代的な観点から観察を徹底し、良好なコミュニケーション・関係構築ができるように常に側面的サポートに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性の中で把握できた情報の重要点をまとめ、その後の生活が充実するように家族、関係者への効果的な伝達を創意工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から、本人の思い、願望、信念等を把握し、個別性、独自性を見極め、情報共有とそれを支援に生かしている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、会話や表情、行動、仕草などに着目し、希望や意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、家族等に確認しつつ、職員間で話しあい、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の中から本人の嗜好・習慣を見極めながら会話を進め、求める生活様式・環境等が把握し、支援に生かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の観察から判明した、本人の強み・独自性は、毎日のミーティング、記録等で職員間でしっかり把握し、適切な支援がなされるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回相談から現在の生活まで、本人、家族、関係者から得てきた情報を、介護計画に生かして作成し、説明し、再計画の繰り返しで、介護計画の内容の向上に努めている。	事業所では、利用者や家族、主治医、関係者等で話しあい、本人本位の介護計画書を作成している。月1回のモニタリングや3か月に1回の見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じて、随時見直すなど、現状に即して柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察点にしっかり踏み込んだケア記録の作成と申し送り、ミーティングで、情報共有をしっかりと行い、常に現状が少しでもよくなるような視点で計画の作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、適切な提案、積極的な介入等を行い、柔軟かつ実効性のある支援の取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の地域の子ども神輿、大人神輿、民生委員、田園パークや植物園、回転寿司店に加え、地域の喫茶店での外食等、選択しを増やすことに努め、楽しみのある豊かな生活の拡大に創意工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族は、法人の母体病院である井上病院での医療を希望されて入所してきているが、症状に応じて、他医療機関への受診・送迎にも努めている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門科の往診や受診時の付きそい支援も行っている。また、協力医療機関とも連携を図り、24時間対応可能な体制を整備するなど、利用者が適切な医療を受けることができるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の母体病院である井上病院所属の医師・連携看護師との毎日の健康状態の詳細な連携で、適切で迅速な医療サポートがなされるように協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段の観察から収集した重要な情報を項目立てで作成した記録物と詳細且つ、簡潔な口頭伝達の組み合わせで、入院から退院までが円滑に行われるように病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変した場合、終末期のあり方を早い段階で、本人、家族、協力病院である医師も含めて話し合い、具体的な今後・方針を決める取り組みをしている。また職員を対象に、終末期ケアについての研修会も行い、対応能力の向上に向けて、取り組んでいる。	事業所では、重度化や終末期における指針を整備している。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族等の意向を確認している。確認した意向をもとに、かかりつけ医や関係機関等と方針の共有化を図りつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やミーティング等で、救急時の対応方法の実践訓練、マニュアルの配備、最新情報の収集で、内容の理解度を高めることで、実践力の向上に努めている。勉強会やミーティング等で、救急時の対応方法の実践訓練、マニュアルの配備、内容の理解度を高めることで、実践力を強化することに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防火訓練(昼間想定、夜間想定)・避難訓練や県立防災センターでの体験訓練・講義を活用した地震・津波・洪水災害等の学習や洪水による水害避難訓練を実施して、災害対応能力を向上させる取り組みを実践している。	年3回、消防署等の協力を得て、併設の他サービス事業所と連携し、防災訓練を実施している。日中・夜間における火災や水害等を想定し、避難経路の確認やマニュアルの整備、炊き出し訓練などを実施している。また、県立防災センターでの体験訓練にも参加し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段の生活から把握した利用者の個性を尊重し、その人にあったコミュニケーション・支援とともに、会話・環境等にプライバシー確保の工夫がなされた対応の構築に努めている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。自尊心を傷つけることのないよう、プライバシーにも配慮している。事業所では、年1回、個人情報保護やプライバシー等に関する研修会を開催し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からの徹底した観察によって把握した本人の思いや希望または個性・生活様式から、自然と本人らが自己決定しやすい環境・雰囲気やコミュニケーションの構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団の持つ心身の活性化・リハビリ効果は毎日しっかり活用しながらも、個性・独自性を把握し、職員による情報共有を徹底し、支援を創意工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで生きてきた女性らしさ、男性らしさ、能力、個性、希望が尊重された支援がなされるように、職員による情報共有を徹底している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備中、配膳しながら、または食事中に献立の内容等に関して、適切な食事・栄養知識、また食文化・風習などの説明・話題提供し、食事から始まる楽しい時間が演出されるように努めている。	事業所では、年2回、嗜好調査を行い、利用者の好みをメニューに取り入れている。準備や片付け等は、利用者と一緒に取り組んでいる。敷地内の畑で採れた野菜を使ったり、行事や誕生日の際には特別な食事を準備したりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療連携の下、利用者ごとに必要な食事内容・形態を検討し、水分量の計量可能なコップをオリジナルで作成し使用したり、電子重量計で適切な量を把握し、健康状態や能力に応じた食事形態や食器やお箸、スプーン等を創意工夫した食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態(自歯、義歯、口腔ケアの自立度、介護が必要な度合い)に対応して、本人の状態にあった口腔ケア支援、管理支援、義歯洗浄支援等の実施に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄ができるように支援し、それぞれの排泄能力に応じ、おむつ、紙パンツ、尿取りパッド類を最小限の適切量での使用とし、排泄能力の維持向上となるようにリハビリ性を重視した支援に努めている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間も個別の状況にあわせて、トイレ誘導を行うなど、排泄の自立につながるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便、排便チェックを毎日適切に記録し、状態の情報共有を職員間で徹底し、米飯、おかゆ、キザミ食、とろみづけ等、食事形態の工夫やリハビリ体操や散歩等の運動のある生活で、心身や胃腸の活性の向上に努めている。並行して医師の指示の下、下剤の適切な服薬も支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望や健康状態を確認し、できるだけ自立した快適な入浴できるように支援している。拒否的な方も、心の底の「清潔でありたい」部分に訴えるような声かけ等を工夫している。	事業所では、週3回は入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの希望にあわせて、時間の変更や同性介助なども行っている。また、個別のシャンプーやリンス、入浴剤などを使用することで、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は離床生活で、心身の活性化・リハビリ効果を支援し、自然と昼夜逆転の予防がなされることと、談話室(リビング)と居室での生活がマイペースに安全になされるように支援し、安心した時間の創出で、気持ちよく眠れるように支援を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師との連携の強化と職員の薬に対する知識の強化(薬の説明書の活用、申し送り、ミーティング等)の中、適切に健康状態を把握しながらの服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの個性・能力によって、適性のある家事作業の共同や見守りの下の調理・料理作業、芸術的、手芸的創作活動を支援し、楽しみのある生活の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、近隣のスーパーでの買物外出の支援や、送迎車を利用して回転寿司店等での外食、植物園、公園での桜の花見や、みかん狩り、ゴーヤ等の農作物収穫の外出を楽しんでいただいている。また、家族や友人・知人との外出時には、車いす、歩行器等の貸出、必要な連絡調整で支援している。	事業所では、年間・月間の外出計画を作成し、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、利用者一人ひとりの心身状況にあわせて、敷地内の散歩や個別のドライブなど、安全面に配慮しつつ、本人本位の暮らしに向けて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭管理能力を超えた金額や管理方法が無いようにして支援し、未然にトラブルを予防しながらも、金銭管理能力に応じた金額・小銭の所持、買い物支援等を本人と家族と話し合いながら個々に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、日常的に当ホーム内の電話機使用支援や手紙、年賀状等のやり取りが気軽にできるように、職員が適切に仲介支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、季節感を意識した利用者・職員共同の創作物、行事写真を掲示することで、楽しくなるような環境づくり、適切な窓、カーテン、エアコン管理で、光と空気が心地よい管理に努めている。	共用空間は、日当たりがよく、清潔感がある。利用者と一緒に制作した季節の飾りや観葉植物等を飾り、季節感を感じることができるよう工夫している。テレビの横にソファを設置するなど、居心地よく過ごすことができる空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、テーブル、椅子、ソファ、大型TV、DVD機を適切な位置に設置したり、気の合った利用者同士の席位置になるようにテーブル・イスを工夫したり、適切な環境変えによって良好な刺激・新鮮感が生まれるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れたタンス、寝具、テレビ、ラジオが設置されるようにし、在宅生活時代の生活様式が少しでも生かされて、自分らしく落ち着いて過ごせるように支援している。	居室には、利用者の馴染みの寝具や家具、テレビ、写真などを持ち込んでもらっている。本人や家族等の意見を踏まえつつ、家具の配置を工夫するなど、安心・安全に過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等の環境を転倒が予防されるようなレイアウト・環境づくり等を基礎とすることで、利用者本人が自然と安全な自立動作ができるように創意工夫と、見やすいネームプレート、トイレ、浴室の目印表示、わかりやすさ、自立性、安全性が確保された環境づくりに努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、事業所として目指すサービスの在り方や方向性を理念として掲げ、ユニット内に複数箇所掲示し、日々の朝礼時に出席職員全員で唱和し、理念を共有し認識を高めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所は、自治会に加入している。利用者が、地域とのつながり親しい人々と馴染みの関係を維持できるよう子供みこし・大人みこしの訪問時 交流等を通して、地域から孤立することなく、関りを継続することができるよう取り組んでいる。また地元中学生の職業体験学習の受け入れを積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護人材育成のための貢献として、介護実習生を積極的な受け入れや地元中学生の職業体験として、介護の現場を見学等で、認知症高齢者に対する理解及び対応の技術等について伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者本人及び家族、役場担当職員、民生委員、病院看護師等参加をお願いし、行事報告や情報交換等を行うと併し、率直なご意見をいただき、質の高い介護サービスの提供に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定申請、入退所報告、ヒヤリハット報告書の情報提供に努め、ケアの取り組み等の報告、相談等で、協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、防犯目的の夜間帯の施設以外は施設していない。身体拘束の具体的な行為について、勉強会・適正化委員会等を通して検討し、職員に周知徹底している。職員が玄関の出入りの声かけ合いを活発に行い、玄関付近の利用者・職員等、人の出入りが、よく観察された状態の維持、さりげない寄り添い・見守りによる安全配慮に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、ミーティング等で虐待項目に該当する知識・情報や、新聞・TVなどのメディアが伝える最新の動向などを検討し理解を深め、資料掲示・回覧等で、虐待予防・防止に取り組む意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、勉強会ミーティング等を通じて、知見を深めることに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際、懇切丁寧な説明とともに、利用者や家族の不安や不明な点について、お受けし、話し合いを深める場とする工夫に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会時、電話等による連絡による声掛けや意思疎通で、利用者や家族が、意見や要望を伝えやすい関係を深め、玄関ホールに、当ホーム及び公的な苦情相談窓口を掲示し、ご意見箱を設置し、意見や要望を出しやすくしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員とのコミュニケーションを取る機会を多く設け、個別に、改善意見等に耳を傾け、運営や環境の改善に反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の資格を給与面に反映させる仕組みの構築や、資格取得の学校や研修会への受講、費用支援、勤務調整等で、労働意欲、やりがいや向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、個々の能力の把握に努め、必要な勉強会、研修会への参加や、資格取得に向けて、働きながらスキルアップができる環境の整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、研修や訓練を他の事業所と一緒に取り組む機会を作り、スキルアップ、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご本人及び家族の困りごとや思いの傾聴を徹底し、信頼関係を構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をする家族の立場に立って、家族等の話をよく傾聴し、これまでの生活歴、困りごと、自立を阻害している要因等について把握し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人及び家族が今必要とする支援を見極める視点を持ち、事業所として必要な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食堂・談話室にて好きな時代劇ドラマ、歌番組の視聴や、洗濯たたみ等の家事を、職員と共同して行うことで、家族的な雰囲気を作り、共に支え合う関係づくりを構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に対する支援者という狭い視点でなく、職員は、あくまでも本人と家族の両方の支援者であるという立ち位置で考え、職員と本人と家族が良好な関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、知人等の面会にも、職員は利用者の最新の現状の能力等を理解している立場から、現状に即した適切なサポートしながら、交流をスムーズに支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の談話室での人間関係の観察と把握を徹底し、円滑な交流がなされるように、必要な介入・支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホームはなみずき2階	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関わりで判明した適切な支援方法について項目立てた情報文書を作成・提供し、家族、関係者が適切な関わりや支援ができるよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がその人らしく暮らしていける支援に向け、利用者個々の生活歴、思いや希望などの把握に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、利用者個々のサービス利用の経過等を、家族や友人、他支援者を信頼関係を構築していくことで、深く把握できるように創意工夫に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者一人ひとりについて、大切にされてきた生活習慣、気にしている心身の状態等の重要点に焦点を絞り、日々の観察やミーティングで話し合い、記録し情報共有し、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らしていくことを阻害している課題について、得てきたこれまでの共有情報から抽出し、分類し、維持・向上できる介護計画作成、説明、再作成の繰り返しで、より良くしていくことに努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過観察の中で、重要な観察点の記録の質と量を確保し、職員間で情報共有を徹底し、適切な介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、適切な提案、積極的な介入等を行い、必要なニーズを抽出・把握し、柔軟かつ実効性のある支援の取り組みに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田園パーク、回転寿司店での外食、バラ園、秋祭りの子供神輿、大人神輿等に加え、近隣の喫茶店での外食等、活用できる地域資源の増加に努め、季節感のある豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時から本人及び家族が希望されている協力病院の井上病院との連携に努めるが、症状に応じて、他医療機関、他事業所への連携も支援して、適切な医療等が受けられる支援に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々のバイタル測定や利用者の状態観察を行い、連携看護師や協力病院との連携で、体調の変化の迅速な情報共有で、適切な医療が受けられる支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者に日頃から収集した情報を簡潔にまとめた書類や簡潔な口頭伝達により意思疎通を徹底し、情報共有を密にし、利用者及び家族が安心して入院から退院までが円滑に進むように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、段階ごとに本人や家族の意向を尊重しながら、医療と連携を取りながら方針の共有を行っている。職員を対象に、終末期ケアについての研修会も行い、緊急時迅速な対応ができるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や緊急時の対応について、院内勉強会で心肺蘇生術、AEDの取り扱い手順等について、研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防火訓練(昼間想定、夜間想定)、県立防災センターでの体験訓練、講義を活用した災害学習、洪水水害に対する避難訓練を実施し、災害に対する対応能力のレベルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守るため、日頃から把握した一人ひとりの個性・独自性を尊重し、その人らしい暮らしの確保、プライバシーが確保された言葉かけ等、質の高い対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日頃のコミュニケーションや観察から、本人の思いや希望について、自己決定がしやすいよう環境、雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	硬直化した日課、計画でなく、利用者がその人らしい生活を可能とする柔軟性のある内容の構築できるように、対応している。。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃の観察から把握された、その人の生活習慣、性差の尊重、能力、個性が尊重された支援がなされる支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しいものになるよう、季節感、栄養、味等が工夫された献立情報を楽しく効果手Kに利用者へ伝達することや、おいしく楽しくなる盛り付けの工夫に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療連携の下、利用者ごとに必要な食事内容・形態を検討し、水分量の計量可能なコップをオリジナルで作成し使用したり、電子重量計で適切な量を把握し、健康状態や能力に応じた食事形態や食器やお箸、スプーン等を創意工夫した食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔内の状態、能力に応じて、口腔ケア、義歯洗浄支援、管理支援などを実施し、誤嚥性肺炎、感染症が予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下肢筋力の維持向上ができるように努め、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。一人ひとりの身体能力、排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事量の把握、排泄記録により日々の体調や能力の把握に努め、米飯、おかゆ、きざみ食、とろみづけ等、飲食物の携帯の工夫により、心身、胃腸の活性化で、自然排便に努めている。医師と相談しながら、適切な便秘薬でのサポートも並行して実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のその日の希望、健康状態を確認し、能力に応じて、できるだけ自立した快適な入浴を支援できるように、支援している。拒否的な方も、心の底の「清潔でありたい」部分の把握と、プライドを尊重した、声かけ等を創意工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安定した睡眠が得られるよう、昼間レクリエーションや体操などをして、活動量が増加するように努めたり、柔らかいコミュニケーションに努め、安心して眠ることができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ついて把握し、薬袋の日付、名前の読み上げ等服薬管理・介助に努めている。症状に合った適切な服薬ができるよう、利用者の状態観察を随時行い、医療関係者に伝え服薬調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯桃たたみ、テーブル拭き等の軽家事作業または能力・嗜好に応じた、季節の飾りつけ、手芸的創作物等の支援で、役割分担があり、創造的な時間を過ごして楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	送迎車を活用して、お花見や、回転寿司店、バラ園やミカン狩り等、季節感のある楽しい外出が遠方の場所でも可能なように支援している。また家族から自宅等に外出の申し出がある際には、本人の体調を把握し、車イスや歩行器具の貸与等で、安全に外出ができるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での金銭トラブル予防しながらも、本人の金銭管理能力を考慮した上で、本人、家族と話し合いながら、能力に応じた金額、または小銭の所持等、最善の方法を検討、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、日常的に、当ホーム内の電話機の使用支援や手紙、年賀状等のやり取りが気軽にできるように、職員が適切に仲介支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には(玄関、廊下、居間、台所、談話室等)、季節感を意識した利用者・職員共同の創作物、行事写真を掲示することで、楽しくなるような環境づくり、適切な窓、カーテン、エアコン管理で、光と空気が心地よい管理に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、テーブル、椅子、ソファ、大型TV、DVD機を適切な位置に設置したり、気の合った利用者同士の席位置になるようにテーブル・イスを工夫したり、適切な環境変えによって良好な刺激・新鮮感が生まれるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には、本人が自宅で長年使いた家具やテレビやラジオ等が置いて、自宅に居た頃の生活習慣が生かされた、自分らしい居心地よい時間が過ごせるように、支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの利用者の身体機能の状態や能力に合わせて、手が付けるソファ等、ネームプレート設置、トイレ等の目印表示、浴室等整理整頓に努め、わかりやすさ、自立支援、安全性に配慮した環境づくりの工夫に努めています。		